

ふ る さ と お も し ろ 統 計 学

給与と労働時間 ～10年前と現在の比較

## 金額上昇，実働は10%減

5月も半ばを過ぎ、新入社員も社会の一員としての生活が慣れてきたころだと思います。働いて給料をもらうことの大変さが身にしみてきたころではないでしょうか。

現在働いている方でも、最近では景気が悪くて、昔ほどは給料が上がらないと不満を感じているかもしれません。もちろん働く側からすれば、給与は高く労働時間は短くというのが望みですが、実際はどのようなになっているのでしょうか。

毎月勤労統計調査によれば、従業員が30人以上の事業所における昭和63年の1カ月平均の現金給与総額は、約32万5千円です。これが平成9年になると約40万円となります。この10年間で約23%増加したことになります。物価は約13%の上昇です（県消費者物価指数より）ので、給与はそれ以上に上昇していることとなります。

また、1カ月平均の総実労働時間数は、昭和63年で約179時間、平成9年では約157時間と、この

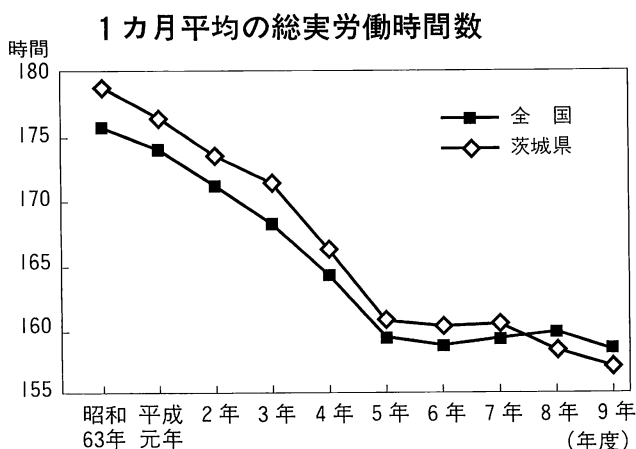
10年間で約10%減少しています。

一方、全国平均の数値をみると、給与総額が約24%の上昇、労働時間が約12%の減少ですので、本県も全国とほぼ同じ傾向だということがわかります。

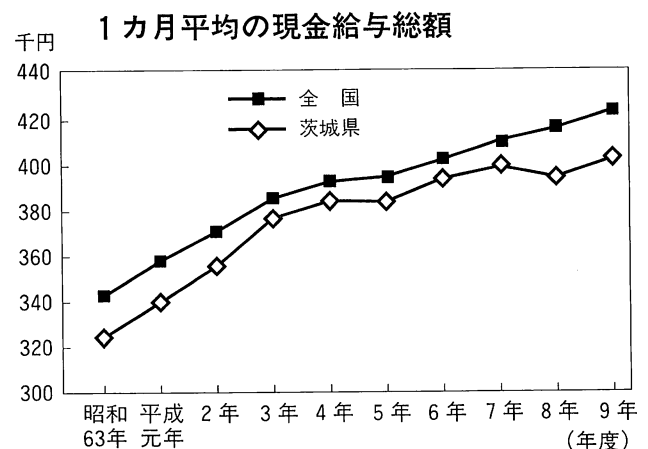
10年前というと、景気がとても華やかなころでした。あのころは高い給料をもらっていたという人も多いと思いますが、全体としては現在のほうがそのときよりも給与は高くなっています。

その反面、労働時間はかなり短くなりました。昔は休暇など取れなかった人も、今は余暇を楽しむことができるようになったことと思います。

今は、外へ遊びにでかけるにはうってつけの季節です。ゴールデンウィークに遠出をした人も、家の中で過ごした人も、この週末は5月の陽光に映える近くの野山へ、新緑を求めハイキングなどにでかけてみてはいかがでしょうか。



毎月勤労統計調査より（従業員30名以上の事業所）



毎月勤労統計調査より（従業員30名以上の事業所）

※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

ふ る さ と お も し ろ 統 計 学

結婚式のシーズン

# 茨城県民はジュンブライドがお好き？

6月の花嫁は幸せになる、という言い伝えはローマ神話からきたもので、アメリカなどでは6月に結婚する人が多いそうですが、日本ではどうでしょうか。

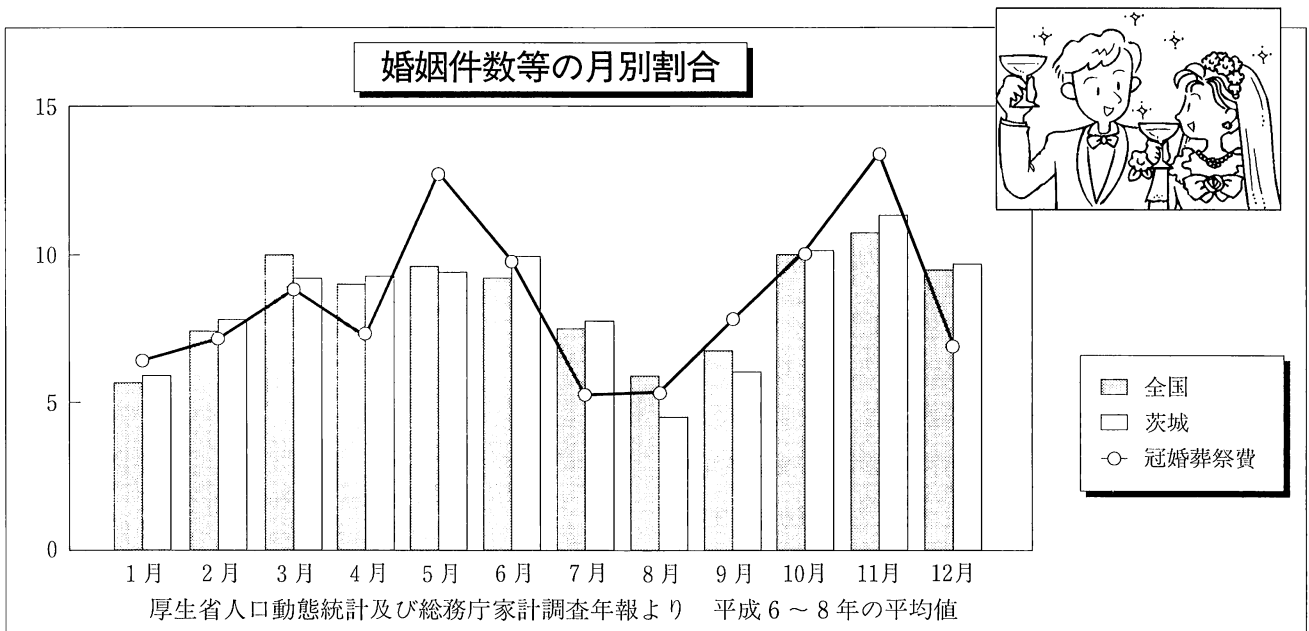
厚生省の人口動態統計から平成6～8年の平均月別婚姻件数を見ると、全国平均では一番多い月が11月で、6月の婚姻件数は6番目です。日本では梅雨の6月でも、欧米では一年中で一番気候の良い季節ですから、簡単に比べることはできません。もっとも茨城県の場合、6月は3番目に結婚式の多い月となっていますから、茨城県民はジュンブライドがお好き、といえそうです。

さて、「地味婚」が静かなブームになっている昨今ですが、結婚式の費用のほうはどうなっているのでしょうか。通産省の特定サービス産業実態調査報告書（平成8年）によると、費用については200～300万円、人数は50人～100人というケースが一番多く、平均費用は278万円となっています。

比較のお金をかける地方は東北や北関東、山梨・長野、九州の佐賀・沖縄などで、300～400万円の結婚式が主流になっています。ちなみに茨城県の場合、400万円以上の結婚式の割合が全体の27パーセント（全国平均の約2倍）を占めていて、「地味婚」ならぬ「派手婚」の傾向があるようです。また、結婚式にお金をかけるといわれる京都や愛知ですが、意外なことにほぼ全国並みの数字が出ています。

お金の話が出ると、気になるのが結婚資金です。総務庁の全国消費実態調査報告（平成6年）から30歳未満の単身世帯における平均貯蓄額を見ますと、男性で149万5千円、女性で166万1千円となっていて、やはり若い2人だけでは厳しく、親の援助が必要といえそうです。

ともあれ、結婚は人生の門出です。ジュンブライドの人もそうでない人も、幸せな家庭を築いていただきたいと思います。



※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

## 指定統計を担当してみても

常北町企画財政課 主事 車 田 政 信

統計の担当になり、早五年が過ぎました。国勢調査を二回はやりたくないかな。(笑)

この仕事で良かったと思うことは、町民の方と接する機会が多いこと。お客さんとしてでなく、統計を通し、国や地域に貢献していくという業務を共に努める多くの町民の方とこんな接し方が出来たことは、素晴らしい経験ができたと思っています。

指定統計の流れとしては、人選の依頼の通知が来て、人選した人が調査票を回収し、それに応じて報酬を支払うという単純な作業ですが、こんなに楽にいけばだれも苦労はしません。

報酬を支払うといっても、お金のために調査員をやっている人は、ほとんどいません。

現状では、町にたのまれたから、引き受けたという方がほとんどです。

最初のころは、細かい調査（農基のような全数ではない調査）ではなかなか調査を依頼しても引き受けてもらえませんでした。「この調査は、自分でやるしかないな。」などと何度も思ったことがあります。農業従事の調査員が多いのですが、とにかく役場にこられた時は、極力、世間話をするように心がけました。(20～30分位ですけど。)農業音痴な私でしたが、そうこうするうちに、頼めばやってくれる調査員の方が増えてきました。

今は、町村でも事務が増え、机が報告文書で山になったりすることもあります(町とか村の自治体で統計専任の人がいるならばうらやましい。)そういうなかでも人と接する機会を大事にしてき

たことが功をなしてきたと思います。

調査員の人に聞いても、同じようなことが言え、調査客体と調査員の親密度が、高い方が調査はスムーズにいくようです。(親密度が高すぎての失敗例もあります。)

統計だけの話しではないと思いますが、今は、こんなことが一般的にもとめられているのかなと思います。

行政の仕事にたずさわっていると、ついつい目の前の提出書類や事務処理に追われてしまいがちですが、そんな間にも、ささいなことではあるけれども、一抹の会話のなかから、協力してくれる方々がたくさん出てきたことを思うと、公共団体の仕事においても、人との接し方が重要になってくるんだと思います。

なんか話が大きくなってしまいましたけれど、市町村というのは、行政のなかでは住民との接点ですから、官、民、企業を問わずこんな考えを基本にしていきたいと思っています。

このことも、統計業務のほんの一つにすぎません。いろいろなレベルでの改善点などがありますが、紙面の都合上、「前向きにガンバります。」で締めさせていただきます。

【新着資料案内】  【新着資料案内】

この資料は、平成10年5月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用ください。  
行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111 (内線 2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
<b>中央省庁関係</b>		茨城県勢要覧 平成9年版	統計課
統計調査総覧 平成9年	総務庁統計局	茨城県民・水戸市民の生活行動 平成8年	〃
労働力調査年報 平成9年	〃	茨城の工業 平成8年	〃
消費者物価指数年報 平成9年	〃	統計からみた茨城 Vol.29	〃
県民経済計算年報 平成10年版	経済企画庁	消費者団体名簿, 茨城県 平成9年3月	生活文化課
人口動態統計 平成8年 上巻	厚生省大臣官房	消費者サポーター活動報告書, 茨城県	〃
都道府県別年齢調整死亡率 平成7年	〃	地域活動(ボランティア)支援センターの整備について	女性青少年課
保健福祉動向調査 平成8年(健康)	〃	保健統計年報, 茨城県 平成8年(第47号)	医務課
茨城の作物統計 平成9年	関東農政局	健康ウォークマップ	健康増進課
関東の畜産統計 平成9年	〃	茨城の貿易概要 平成9年度	商工政策課
毎月勤労統計調査特別調査報告 平成8年	労働省	茨城の労働経済 平成9年版	労政課
地方財政白書 平成10年版	自治省	中小企業の貸金事情 平成9年	〃
地方財政要覧 平成9年12月	地方財務協会	木材需給の現況 平成8年	林政課
<b>茨城県関係</b>		林政行政の概要 平成10年度	〃
市町村職員海外派遣研修報告書 平成9年度	自治研修所	漁船統計表 平成8年12月31日現在	漁政課
市町村概況, 茨城県 平成10年度版	地方課	<b>会社, 公社, 団体等</b>	
主要事業の概要 平成10年度	企画調整課	茨城県会社要覧 1998	御常陽地域研究センター

**編集後記**

連日連夜、ワールドカップのテレビ観戦で寝不足の日々が続いています。

世界のスーパースター達にみとれながら4年後には、日本で、そして茨城で彼らのプレーをみられるのかと思うと今から胸が踊ります。

(KM)

**統計いばらき**

1998.6 No.530

平成10年6月発行

編集兼発行/茨城県企画部統計課

茨城県統計協会

〒310-8555 水戸市三の丸1丁目5番38号

電話 029-221-8111(内線)2651・2652

029-221-5505(直通)

FAX 029-228-0961

印刷所/富士オフセット印刷株式会社